![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　平成２８年臨時１号

　園長　平澤　正則

育児に迷ったり，困ったりしているあなたへ，“育児書”お貸しします

　毎日子どもと接していると，時々あの子の行動やこの子の言動はどういうわけなのだろうと考えることがあります。そういう時本箱から取り出して私の疑問に答えてくれているのが職員室内にあり私が頼る“育児書”です。

時としてそれは私の悩みごと相談にもなってくれています。しかし，そんなに頻繁に利用しているわけでもなく，頻度としては“たま～に”くらいです。

　そこで今回，埃に埋もれそうなそのもったいない本をできるだけ活用したいと考え，保護者の皆様にお声かけしたという次第です。職員室内にはその手の本や冊子などがいろいろありますが，貸出しに堪えられるようなものの中から私の独断と偏見とにより今回以下の３冊を選んでみました。どれも読みやすく気に入っています。

　私個人の選書の仕方ですが，まず“タイトル（題名，本のなまえ）”。２番目が分量や装丁，厚さが２ｃｍ以上になってくると少し覚悟が必要になりますし，表紙が分厚いのもかさ張って本棚に入りません。次に適当なページをめくってさらさら読んでみるか，またはもくじで興味を引く個所を探し，その部分を読みます。そこで面白ければ８０％買いです。さらに，迷う時には，“あとがき”とか“おわりに”などを読むこともあります。作者の普段の考え方や著作の意図などを知ることができるので，代価支払の納得度を高めます。最後に値段。通常1,500円以上になると脳内の購入決定委員会が招集され，最後に委員長から本当にいいのかと問いただされ，よどみなく「大丈夫です。」と答えられて，はじめて購入が決定されます。

　さて，善隣幼稚園にはかつて「母親文庫」というものがあり，本の貸出等をしていたことがあるようです。もうしばらく前のことで，現在の職員はだれもその内容を知りませんが，２階倉庫の隅っこには今も当時の本箱がひっそりとだれにも捨てられずに眠っているのです。仮に，年間１冊しか買わなくとも１０年経てば１０冊になり，その知識や情報の多くは埃の中に埋もれていくばかりです。考えればもったいない話です。

「わざわざお金を出してまでとは思わないが少しはページをめくってみたい。」という人にはおすすめ！

　そういうわけで，下記の☆印３冊をご紹介します。貸出しルールは以下のとおりとします。

　　１　借り方　：　担任の先生か直接園長に　①本名　②借りる期間　③借りる人の氏名を申し出てください。

　　２　貸出期間：　１週間とします。続けて読みたい場合は，さらにその希望を伝えてください。

　　３　貸出し順番：申し出順に行います。その場合貸出期間は限られることもあります。

　　４　破損・食べこぼし等の汚れ　：気をつけても起こり得ることです。必ず申し出てください。

そうでないと次の人が困ることがあります。寛大に対処します。

* “子どもがじっと耳を傾ける魔法のおはなし”　　―　　陽一　監修　　　喜代子　編

　　　発行所　ＰＨＰ研究所　2008年10月31日　第１版第25刷発行―

* “楽しく遊んで子どもを伸ばす　―子育ての悩みに教育研究者が答えるＱ＆Ａ―”

　　　　　―　茨城大学教育学部　茨城大学教育部附属幼稚園　編　　発行所　福村出版株式会社

2016年8月10日　初版第１刷発行　―

☆　“あした会えるさ　”　今泉　文彦　著　茨城新聞社2012月1月25日発行 　 （2016.9.16）